

第24回旭川市アイヌ語地名表記推進懇談会の開催結果

開催日時	令和7年3月10日（月） 午後1時～午後3時半
場所	旭川市博物館 郷土学習室
出席者	小野氏、川村氏、高橋靖以氏、本間氏 （欠席：高橋基氏） 計4名 事務局：矢萩館長，飯岡課員
公開・非公開	公開
傍聴者	0名
会議資料	① 令和5年度製作・令和6年度設置アイヌ語地名表示板資料 ② 巡見資料

第24回 旭川市アイヌ語地名表記推進懇談会

日 時 令和7年3月10日 午後1時
場 所 旭川市博物館 郷土学習室

次 第

1 開会

2 館長挨拶

3 議題

- （1）令和5年度製作・令和6年度設置のアイヌ語地名表示板の報告について
- （2）巡見
- （3）その他

4 閉会

事務局	ただいまより、第 24 回旭川市アイヌ語地名表記推進懇談会を開会いたします。今年度の懇談会については、旭川市アイヌ政策推進交付金事業計画に基づき開催しております。 本日の懇談会の内容については、配付している会議資料表紙の次第のとおりです。開催時間につきましては、2 時間程度を予定しております。 なお、本日の参加者ですが、高橋基委員は欠席となっております。 それでは、館長より御挨拶申し上げます。
館長	皆様、本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。また皆様には、アイヌ語地名表示板を始め、博物館の様々な事業に御協力をいただきまして、深く感謝申し上げます。アイヌ語地名表示板も皆様の御協力により、昨年の 10 月には 41 基目となる「石狩川」の表示板を設置することができました。御協力に感謝いたします。 今年度、博物館では地名表示板の設置のほか、ナイタイベ、カムィ コタン、クツ ネシリなど、神居古潭方面のアイヌ語地名表示板をめぐるバスツアーを開催いたしました。また 9 月にアイヌ文化ふれあいまつり、11 月にアイヌ文化に親しむ日というアイヌ文化を紹介するイベントを開催しているのですが、その中でも 41 基あるアイヌ語地名表示板のいくつかを写真等で紹介する展示を作りまして、アイヌ語地名について紹介したところです。さらに 12 月 14 日から 2 月 24 日まで、企画展「川と暮らし～あさひかわの人びとと川～」を開催しましたが、その中でも川に関する資料と合わせまして、アイヌ語地名表示板の写真や説明の展示をいたしまして、約 2 万年前から現代まで、ここに暮らす人びとの暮らしが川とともにあったことを、アイヌ語地名もまじえながら、御紹介したところです。また 3 月 2 日には札幌学院大学の山田先生をお招きしまして、アイヌ語地名に関する講演会を開催しました。明治以降、アイヌ語地名がどのように書き換えられてきたのかという経緯について御講演をいただきました。 昨年度の懇談会では、石狩川の表示板の文面について御意見をいただき、新たな設置候補地名についても御意見をいただいたところですが、その際に皆様で現地を確認してみてはどうかという御意見をいただきました。今回の懇談会につきましては、来年度に表示板設置の候補として考えている神水川について、表示板の設置候補地を皆様で見に参りたいと考えております。また併せて、昨年 10 月に設置しました「石狩川」の表示板、そして雪が積もってしまして近くまで行けない場所や、車の中から御確認いただく場所もあるのですけれども、既存の表示板のいくつかについて、めぐりたいと考えております。 今後も博物館では、アイヌ語地名表示板の設置をはじめ、アイヌ文化や歴史について紹介し、理解を促進する事業を進めて参りたいと考えておりますので、今後とも皆様の御協力をよろしくお願いいたします。本日は、よろしくお願いいたします。

事務局	本日の懇談会の内容は、ホームページでの公開の対象となっております。会議録作成のため、録音させていただいておりますので、あらかじめ御了承ください。 それでは、この先の議題につきまして、座長に進行をお願いいたします。
座長	本日は年度末のお忙しいところ、お集まりいただきまして、ありがとうございます。 館長からの御挨拶にもありましたように、旭川市で様々な機会を通じて、アイヌ語地名のことや、アイヌの人びととの平等な社会を実現するための施策が行われているということで、大変うれしく思います。 本日の議題としては3つありますけれども、まず最初に議題1「令和5年度製作・令和6年度設置のアイヌ語地名表示板の報告について」事務局からお願いいたします。
事務局	会議資料の2ページ目を御覧ください。「令和5年度製作・令和6年度設置のアイヌ語地名表示板の報告について」になります。 令和5年度に開催した第23回懇談会において、文面等の検討をいただいた「イシカラ／石狩川」の表示板製作と設置の報告です。皆様に文面の検討をいただき、2ページ目の写真のとおり表示板を製作・設置いたしました。製作は令和5年度中に行い、設置は令和6年10月2日に実施いたしました。2ページ目、下の写真は、設置完了した表示板を遠目から撮影した写真になります。資料の3ページ目が、設置場所の航空写真になります。設置場所は旭川市常磐公園内で、石狩川の河川敷にあがっていく階段の横に設置いたしました。この後、実際に現地で御覧いただきたいと思います。以上です。
座長	ありがとうございました。今の報告について、何か御質問はないでしょうか。 これから実際に見に行くとのことですね。
事務局	はい。
座長	皆様よろしいでしょうか。 (質問なし) それでは、議題2についてお願いいたします。
事務局	議題2「巡見」になります。資料4ページ目が今回の巡見の場所となります。また、この資料と別にA4横の地図資料を配付しております。 博物館を出まして、先ほど御報告した「イシカラ／石狩川」表示板の現地を御確認いただきます。その後、比布町の方まで行き、令和4年に設置した「ピピ、ピプ／比布川」表示板の近くまで参ります。ただ、サイクリングロードが雪で立ち入りが困難ですので、遠くから設置場所を御確認いただくかたちとなります。次に永山まで移動し、設置候補地の「神水川」、近くの上野ファーム駐車場に設置されている「キピリ ヌブリ／射的山」表示板を御覧いただければと思います。ここから博物館へ戻りますが、途中、永山南中学校のフェンスに設置されている「タンネ ムム／永山3号川」表示板の前を通過いたします。 本日は、このようなコースでまわりたいと考えておりますので、よろしく願いいた

	します。
座長	ありがとうございました。何か御質問はないでしょうか。 (質問なし) 出発前に、ひとつよろしいでしょうか。 開会前に、チラシを1枚配付していただきました。今年の5月24日に東京で「地名標準化の現状と課題」というタイトルの、公開シンポジウムが開催されることになっています。主催が日本学術会議という、今いろいろと話題になっている、政府の規制が入りそうで問題となっているところですが、日本の学者・研究者の一番の組織になります。そこが世界中のアカデミックな組織と結びついているわけですし、日本の代表みたいなかたちで海外と対応しており、国連の様々な事業とも対応しています。 今、世界的に地名の標準化が大きな問題となっていますが、例えば中国の「北京」。昔はみんな「ペキン」と習いましたが、中国語では「ベイジン」と言いますよね。なので「ベイジン」と書くのか、「ペキン」と書くのか、これがまた大きな問題となるわけです。身近な話では、ウクライナの首都を「キエフ」と言っていましたけれども、戦争以来、ウクライナ語で「キーウ」と言うようになっていきます。ロシア語の名前は嫌だということで、変わっているわけです。つまり標準化というのは、どの地名を一番の標準の地名にしようかということです。これが世界的な課題となっています。 日本学術会議がそれを受けて、特にこれは私の専門である地理学と非常に関係が深いので、日本地理学会がさらにそれを受けて、既に何回か行っているのですが、こういったシンポジウムを開催することになりました。 今回は第一部、第二部、第三部とありまして、第一部は国連の関係で、世界的な地名をどうするか。ここでは漢字圏の地名委員会について取り上げられますが、中国の力がどんどん強くなってくると、すべて中国が決めてしまう恐れがありまして、現在問題となっているのは、チベットや新疆ウイグルのことがあります。チベット語やウイグルの人びとが、元々の地名を持っているわけですが、次々に中国語の漢字の地名に変えられていっている。しかもこれまで単なる当て字だったものが、最近になると中国共産党のスローガンや赤い旗に関連した「紅旗」「前進」など、まったく関係のない言葉が当てられてしまうわけです。そういったことが第一部では話し合われると思います。 第二部では様々な地域の例が議論されるのですが、その中で私が「旭川市におけるアイヌ語地名を平等に併記する地名表示の試みについて」ということで、これまでの20年間の成果を発表したいと思っています。これによって、さらに地名を平等に併記するという運動が全国的に広がればいいなと思って話をしますので、御紹介させていただきます。 また、これに関連して古今書院から書籍も出版される予定です。夏以降になると思いますが、私もその中の一章に「旭川市地名表示の試み」ということで、既に原稿を書

	きました。また出版されたら御紹介したいと思います。 そういうことで、20 年間やってきたことが様々なかたちで他の人達に影響を与えるのではないかと、大変うれしく思っているところです。
事務局	ありがとうございました。 それでは巡見に参りたいと思いますので、御準備ください。
	【巡見】 ・「イシカラ／石狩川」表示板について、良い場所に立てることができたと思う。 ・神水川は、川のそばに立てるのがよいが、「キピリ ヌプリ／射的山」と一緒でもよいと思う。 ・「キピリ ヌプリ／射的山」は人目につく。 ・川の流路について、昔の地図を見たい。 ・地形を見ると、かつては川が射的山に沿っていた形跡がある。 ・現地を見ないと分からないことも多いと感じる。
座長	皆様おつかれさまでした。短い時間でしけれども、効率よく、いくつかの表示板を見てくることができて、大変よかったと思います。また次の候補地も見ることができて、良かったです。何かコメントや御意見ございますか。 神水川は、できれば橋のところがいいですが、それが難しければ「キピリ ヌプリ／射的山」と一緒にということで、交渉していただければと思います。よろしく願いいたします。 表示板について、市民からの評価というのは、どうでしょうか。「見てきたよ」とか、何か反応ありますか。
館長	直接、博物館の方にお声をいただくことはあまりないのですが、何人か熱心にまわってくださっている方はいます。
座長	3 月 2 日に講演会がありましたが、何人くらい来られたのですか。
事務局	40 人弱の参加がありまして、ほぼ満席となりました。
座長	そのときにアンケートはなさないのですか。
館長	アンケートはとっております。
座長	講演会だけのアンケートではなくて、アイヌ語地名表示板について、例えば「自分は何か所くらい見に行ったことがある」など、そういったアンケートをしていただくというのではないかなと思います。そういったことで評価や、こういった場所に表示板を立ててほしいといった希望とか、もちろん立てる場所はなかなか難しいわけですが、知ることができるのではないかなと。 基本的な方針として、1 か所ずつ立てましようということで始めたわけですが、20 年間で 40 基となって、どうしても立てたい地名は立ってきたと思うのですね。ただ、川だったら複数立てるとか。もちろん、川は元々のアイヌ語地名が、川のどこについてい

	たか分からない場合が多いわけですが、現在の私達の在り方でいえば、この川がアイヌ語でこう呼ばれていたということで、その川筋に何か所かあってもいいと思うのですね。開発局などが作っている川の看板はいくつもあるわけですから、同じような考え方で、人が見てくれそうな場所に何か所か立ててもいいと思います。例えば、忠別川も旭川駅の裏に作っていただきましたが、他にもあってもいいかもしれない。複数作れる場所を探していくのも、ひとつのやり方かなと思います。
B氏	表示板ですが、詳しく本とかにできないかなと思います。
座長	リーフレットのような。もちろん市のホームページを見れば、全部が紹介されていますが、ホームページを見る人は限られますからね。
B氏	紙のものがいいですね。
座長	やっぱり手で持ってまわれるのがいいですね。スタンプを押すとか。
B氏	もっと表示板だけでは書ききれない内容を掲載して。
座長	そうですね。もっと詳しい情報を載せるとか、それにまつわる話が、いろいろあると思いますから。
B氏	表示板が 50 基になったら、まとめたものを出すとか。
座長	お金がかかることではあるので、予算化しないといけないですけども。 ひとつは 50 基までがんばって、50 基を記念してやるというのもいいですね。 最初に表示板ができたのが 2003 年で、検討を始めたのはその 1~2 年前くらいだったと思います。始めて立ってからにしても、もう少ししたら 25 周年とかになりますね。
B氏	そのときのメンバーは、何人かお亡くなりになってますよね。
座長	はい。
B氏	なので、その準備段階のことも、少し触れてもらったりとか。
座長	そうですね。歴史とか、関わってくださった委員の方とか。今やこれ自体が歴史的なことになっていると思います。今回のシンポジウムでも、そういったことを話したいと思っています。 今年というわけではなくて、来年・再来年にそういったものを作るように、今から準備して。予算請求するにしても、ある程度のページ数など決めておかなければならないと思いますし。手に持って歩けるようなものを。そういったものを、今から検討したらどうかと思います。
B氏	表示板に書いていないことを入れてもいいと思います。
座長	もちろん。今後、立てたい場所を入れてもいい。
館長	表示板を立てることができる場所は限られますからね。
座長	表示板は立てられないけれども、こういう地名もあると紹介する。
B氏	写真や、意味も分かりやすく書いてあったら。
館長	現状、地名表示板がありますということを紹介しているリーフレットはあるのですが。

B氏	ゆきんぼによく置いてあったりしますよね。ただ場所を書いてありますけれども、地名の意味までは書いてなかったりする。現地に行って表示板を見れば分かりますが。 また、ここで話し合っている内容は、表示板にするには文字の制限がありますから、それ以上の情報がいろいろあるわけじゃないですか。そういうことが盛り込まれたような内容だったらいいかなと。
館長	検討させていただきます。 イベントのときなど、一覧を置いておくと、持っていく方は多いので、興味を持っている方はいらっしゃると思います。
B氏	たぶん、いると思います。実際に表示板を見たら、ああ、あそこにあるんだ、となる。
C氏	ピィ タ ウシ ナィの表示板の紹介に、ピィの写真を一緒に載せるとか。採取した写真と、野生の状態の写真と。
B氏	こういうものですよ、と。根も取ってきて。
座長	どういうふうに使ったとかね。みんな疑問に思うでしょうから。そこから広がっていきますよね。アイヌ文化を知るきっかけになります。ひとつひとつ丁寧に説明していくと、とてもおもしろいものになる。そういうものができたらいいと思います。ただ、少なくとも1年から2年をかけないとできませんから。
館長	時間はかかると思います。
座長	新年度から準備したとしても、2025年度からそういう方向で検討を始めて、26年度とか27年度くらいかなと思います、完成するのは。
館長	原稿や写真など、材料をそろえるのに、かなり時間がかかるかと思います。
座長	みんなで手分けをして、そういうのを考えてみる。あまり厚くならない方がいいと思います。手で持って歩ける程度のものです。逆に、二次元コードとかをつけておいて、そこから、もっと詳しい説明が読めるとか。いろいろなやり方が、今はあると思いますね。そういうのを、少し考えてもらいたいと思います。
館長	すぐには難しいですが、検討したいと思います。
座長	他にはよろしいですか。Dさん、何かありますか。
D氏	生徒達と、どうやって見てまわろうかなと考えていました。
B氏	広範囲ですものね。
座長	結構広い範囲ですからね。なので、なかなか1回ではまわれないですね。
B氏	まわるコースも考えましょうか。
座長	いくつか考えてもいいですね。
B氏	永山方面コースとか、神居古潭方面コースとか、こう行ったらいいですよ、みたいな。
座長	そういったことは、なさってるんですよね。
館長	はい。バスツアーを年に1回開催しています。
座長	そのときは、1回に何か所くらい見てまわるのですか。

館長	2～3 時間で、多くて 5 か所くらいです。
座長	それくらいですね。今日も、あっち行ったり、こっち行ったりしたら、結構時間がかかりましたよね。
事務局	実際の地名ツアーのときは、1 か所ずつバスを降りて説明もするので、それほどたくさんはまわれないですね。
座長	乗り降りでも時間がかかりますね。
B 氏	神居古潭とかは、いくつか表示板がまとまっていますよね。
座長	なので、いくつかコースが作れるかもしれないですね。 新年度もツアーの計画などあるのですか。必ず 1 回はやるのですか。
館長	はい。コースはひとつで、それを 2 回やります。一日で 2 回やることもあれば、一日に 1 回で、二日間やることもあります。今年度は神居古潭へ、昨年度は東鷹栖方面をまわりました。
座長	神居古潭へ行ったら、なかなか他のところはまわれないですね。 そのあたりも含めて、新年度も検討していただければと思います。どうもありがとうございました。 次回の懇談会は、いつ頃になりそうですか。
事務局	新年度になりましたら、神水川の設置場所について相談等してみまして、もし許可が得られれば、製作から設置まで年度内に行いたいと考えております。8 月終わりまでには開催し、文面を検討していただければと考えております。
座長	それでは、よろしくお願いいたします。
事務局	それでは、第 24 回旭川市アイヌ語地名表記推進懇談会を閉会いたします。本日はありがとうございました。